

Vol. 3

二世帯住居の

ワンポイント・アドバイス

A

ハウスメーカー

数々の実績があり、
様々なケースでの
二世帯同居をアドバイス!

Q

細かいところも
詳しく相談したい?



① 新しい「二世帯住宅」

時代が変わり、今また「二世帯同居」住宅が増えています。親・子・孫が同じ家に暮らす二世帯同居（三世帯同居）という言葉が生まれたのは、今から約30年ほど前からですが、それ以降は、核家族化が進み、土地付きローコスト住宅が増加することになりました。

そして、今また時代が変わり「二世帯同居」が復活しています。それには数々の理由がありますが、そのひとつには家族の絆を深めたいというひとりひとりの想いがあります。全国各地で災害や事故が多発し、家族の絆が再認識されています。もともと祖父母が孫の面倒を見たり、家族がそれぞれ助け合って暮らす事が当たり前だった頃の日常が見直されているのです。

② 孫がきっかけで...

実際に同居を始めた家族の例では、孫ができたことがきっかけになったケースも多く、共稼ぎの世帯の場合の80%以上の親世帯が孫に何らかのカタチで関わっているという調査結果もあります。孫を通じた家族のふれあい、育児の手助けが大切になっているようです。

③ メリットも多い

暮らし方だけでなく、資金的なメリットもあります。長引く不況、将来の不安なども根強く、子世帯だけで土地を購入し、さらにマイホームを建てるのは大金がかかります。親子で話し合っ、親の土地に二世帯住宅を建てることで土地代が節約できます。もちろん、親子二世帯で住宅ローンを支払うこともできます。

④ 進化した住宅

さらに、住宅の性能や仕様がここ数年で大きく飛躍し長期的な暮らしの変化にも充分対応できる高性能な商品が開発されたことも大きな要因になっています。例えば今話題のZEH(ゼロエネルギーハウス)なら、建築費が若干高くなっても、ランニングコスト(電気代・ガス代等)が抑えられる住まいなら、親世代にとっては安心できる要素です。親世代が今を快適暮らし、そして子どもや孫世代に残してあげられる大切な財産としても、価値のある住まいになるはずです。

二世帯同居の

数々のメリットを整理しておきましょう!

- 1 家族の絆が深まる、本来の暮らし方を実現できる。
- 2 親世代が孫とふれあいながら、子世代の生活をサポートする。
- 3 新たに土地購入することがないので、生活費にゆとりが生まれる。
- 4 二世帯で住宅ローンを支払えば、あこがれの住まいを新築できる。
- 5 省エネ住宅等、最新の住まいで快適な暮らしが始まる。